

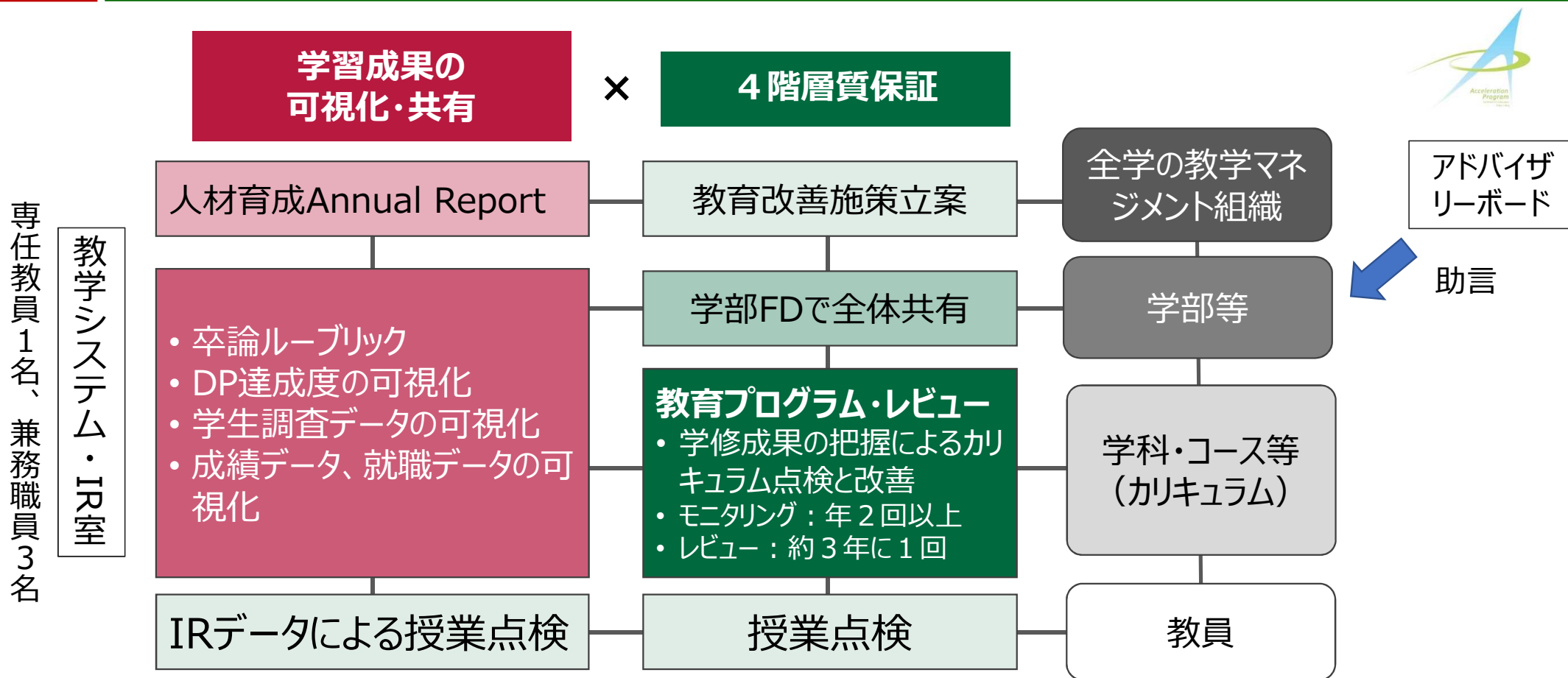


茨城大学の教育改革

学内及び学外連携による 教育の質保証システムの構築



茨城大学 学長 太田寛行



IRからの教育改善情報が学内を流通 → 全員の「気づき」を促す

卒業時の質保証に向けた作業工程

全学共通DPの採用



世界の俯瞰的理解



専門分野の学力



課題解決力・コミュニケーション力



社会人としての姿勢



地域活性化志向



DP
導入教育
(コミットメントセレモニー)



① 1年ごとのDP達成度

② 4年間のDP達成度



③ 3年後の
DP活用度

↑ 意見反映

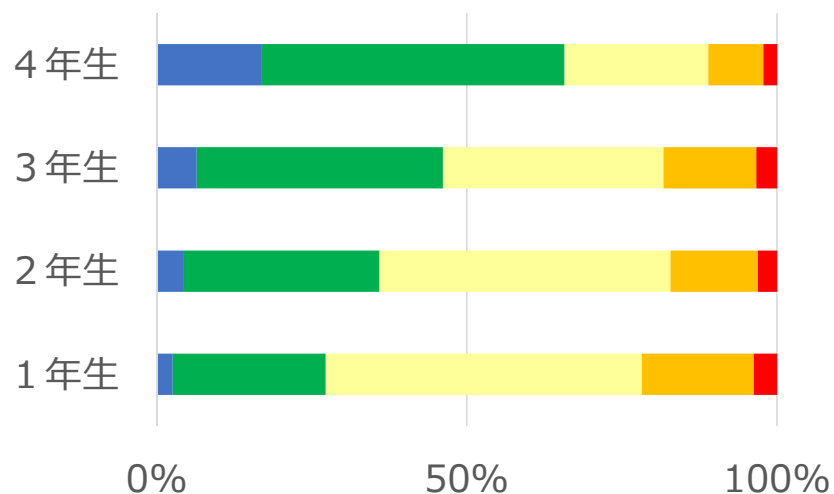
就職先

④ DP達成度 (直接)

入学時から卒業後まで、ディプロマ・ポリシー (DP) 達成度を追跡し**全学で共有**

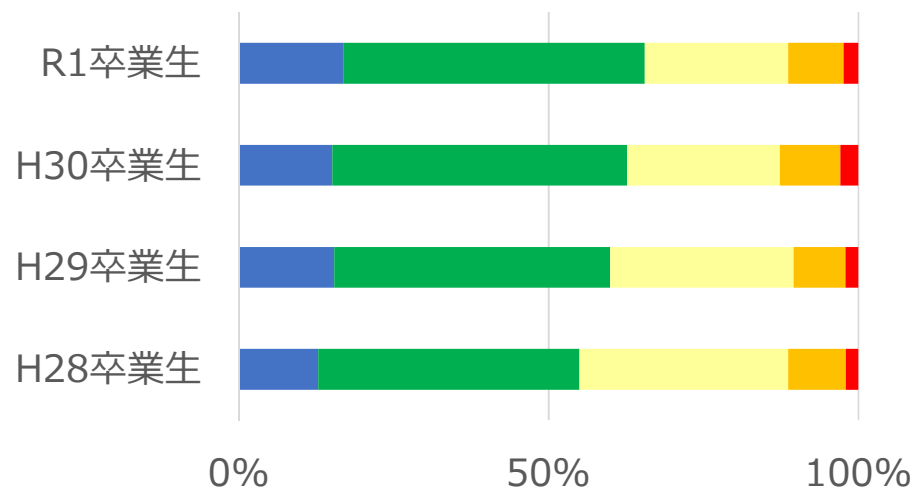
① 各学年での学修成果

2016年度入学生を追跡



② 卒業時の学修成果

卒業時の学修成果の経年変化



学年が上がるにつれて学修成果 (DP達成度) は向上

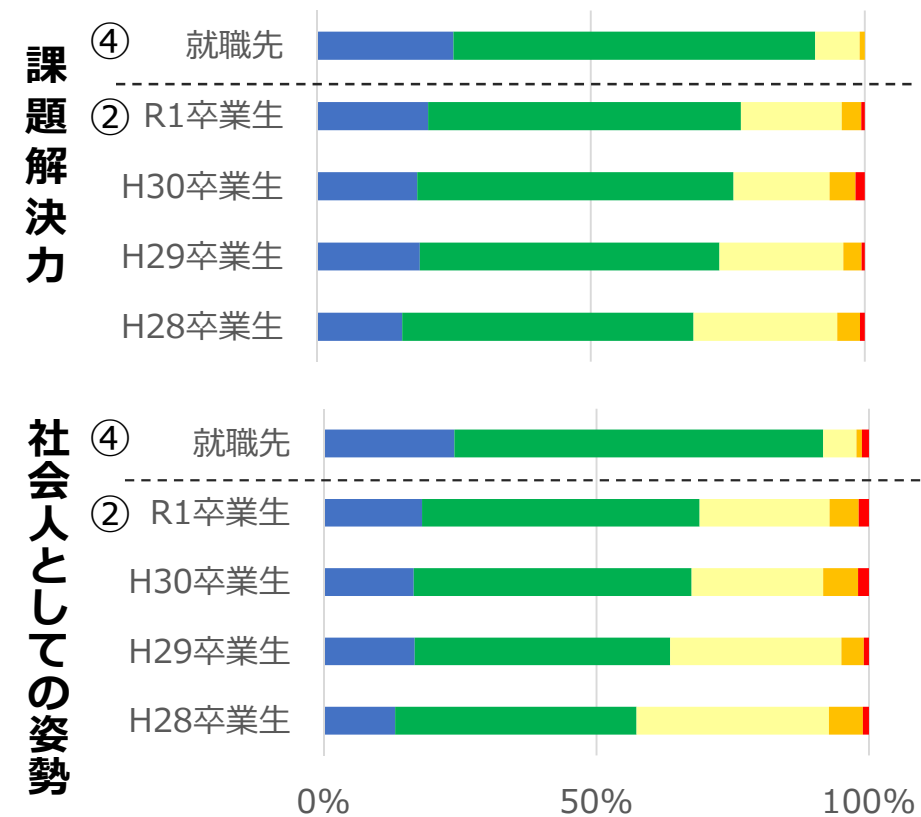
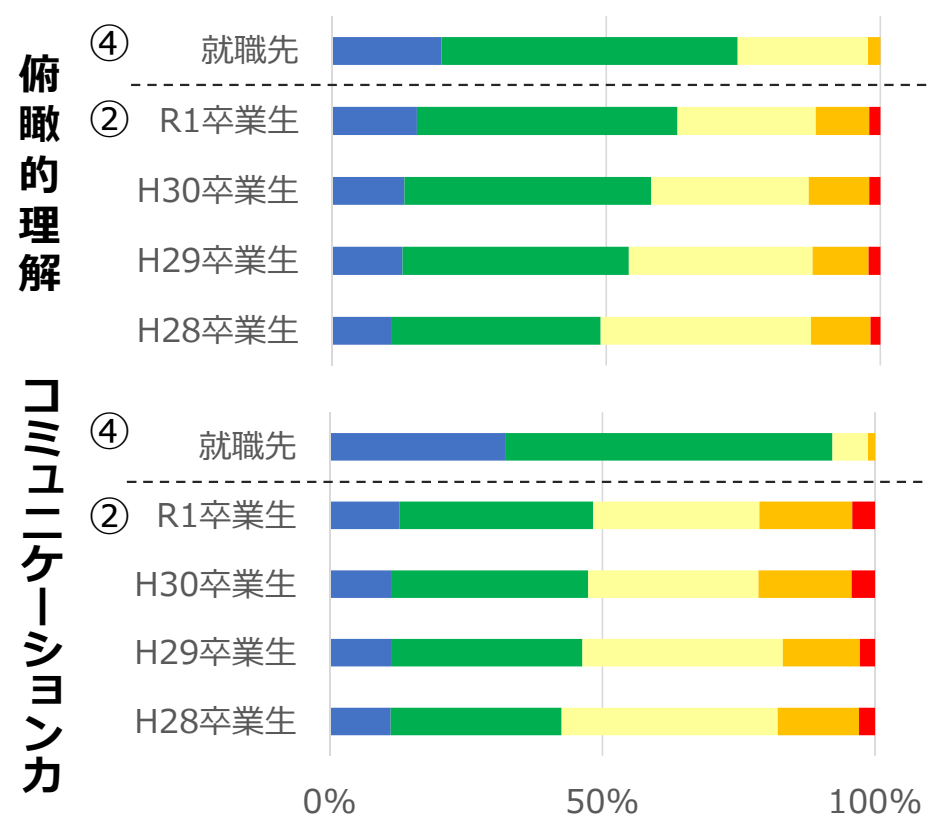
AP事業開始以降、卒業時の学修成果も向上

■ 達成 ■ 概ね達成 ■ どちらともいえない ■ 一部未達成 ■ 未達成

就職先からの学修達成度評価

② 卒業時の学修成果

④ 就職先の評価



学生の認識と社会の評価と比較し、差分の解消を目指す

■ 達成 ■ 概ね達成 ■ どちらともいえない ■ 一部未達成 ■ 未達成

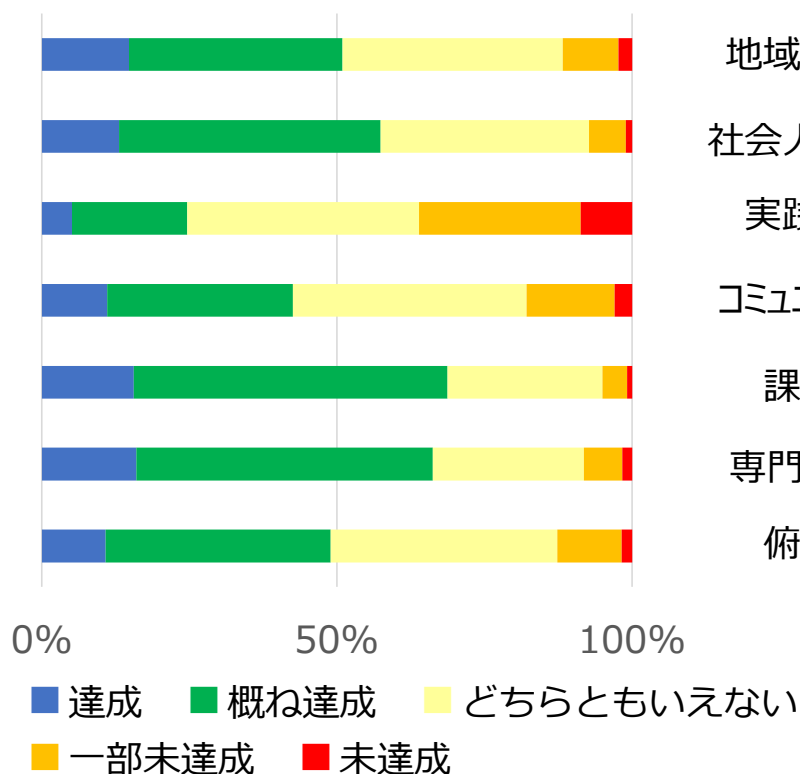
② 卒業時の学修成果

3年後

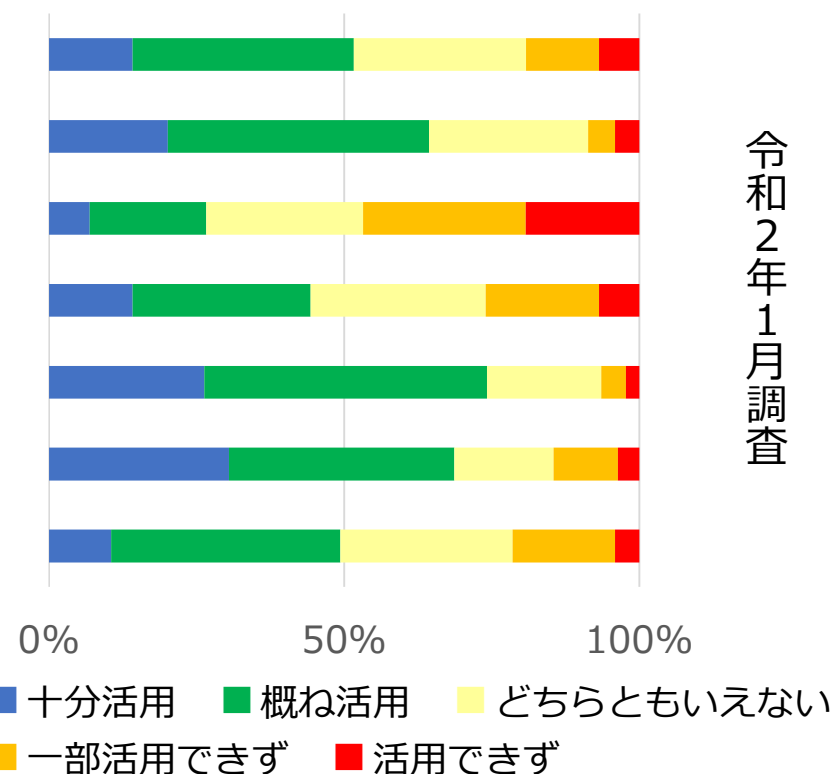
③ 3年後の活用度合い

平成29年3月卒業生

令和2年1月調査



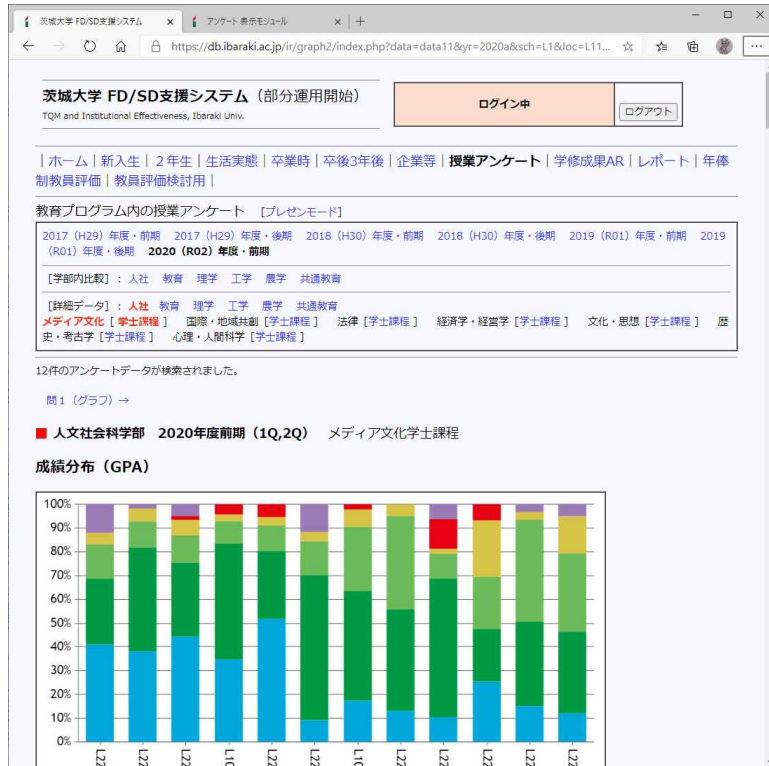
地域活性化志向
 社会人としての姿勢
 実践的英語力
 コミュニケーション力
 課題解決力
 専門分野の学力
 俯瞰的視野



卒業時に身につけた力は、社会で活用できる

教育プログラムレビューのための情報のデジタル化

※学内限定



人材育成Annual Report
(学修成果Factbook)

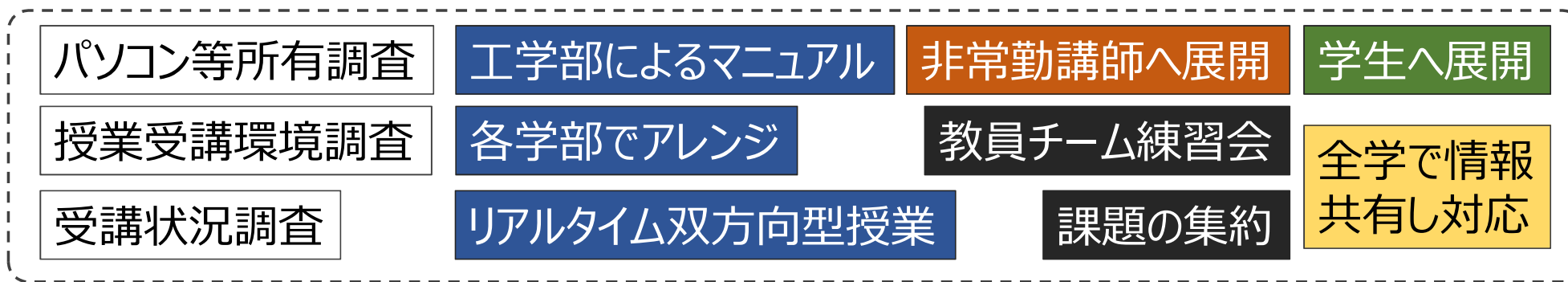


茨城大学コミットメントがみえる

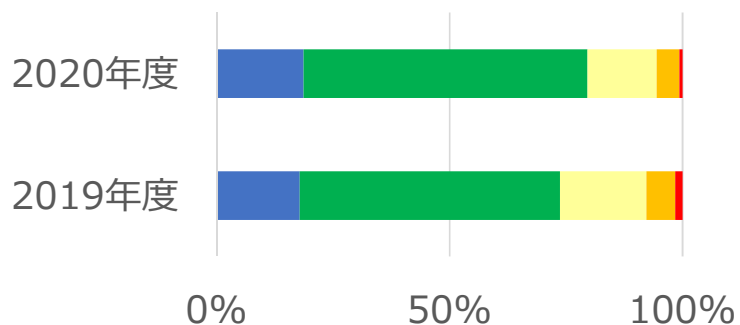
<https://www.ibaraki.ac.jp/commit/mieru/index.html>

学内での教育成果把握と学内外での発信・共有

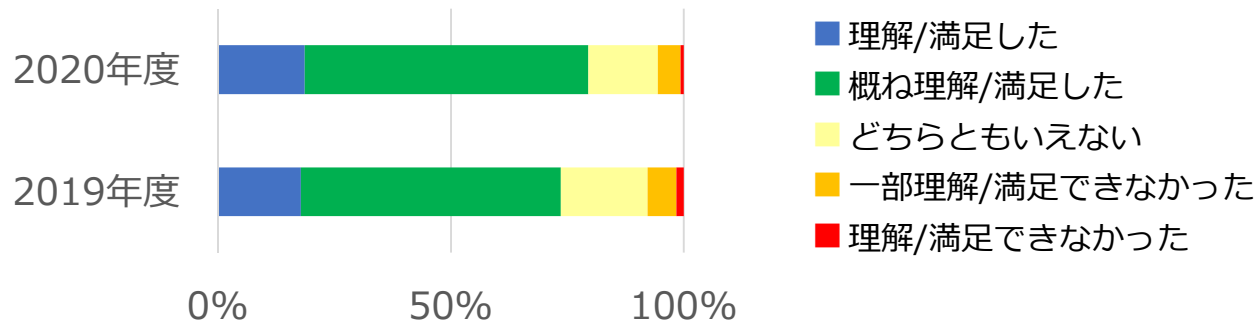
- 教員らが情報を共有し、チームで対応する文化で入念な準備を実施



理解度の経年変化



満足度の経年変化



入念な準備による遠隔授業の有効性が確認された

自立的・組織的改善体制の構築：

改善活動を促す「場・きっかけ・コンテンツ」を提供する仕組み

- 必要な時に、必要な情報を、必要とする学部、学科、教員に必要なだけ提供する仕組み（教育改善情報ロジスティクス）を構築
- 各種IRデータをコミュニケーション・ツールとして教員らが自発的に改善
 - データを見ながらFDを実施することが「日常化」
 - 学生を含め、ディプロマ・ポリシー向上が全員に定着

地域社会と協働して「教育の質保証」をしていく仕組みの構築：

- 地域の方々によるアドバイザリーボードに取り組みを報告 → 助言
 - ルーブリックなど、卒業時の質を測る「ものさし」も地域の方々で構築